



福岡市育成会だより

第144号

発行所 社会福祉法人 福岡市手をつなぐ育成会

〒810-0062 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ4階
TEL. 092-713-1480

この会報は、
共同募金の配分を
受けて作成した
ものです。



ありがとうございました

「アンケートについて考える」

理事長 向井公太

年明けで一回目の発行となります。
福岡市手をつなぐ育成会を本年も
よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年から新聞やテレビなど
マスコミを通じて耳にした言葉に、
現在のわが国の世相を表すものとし
て、「3だけ主義」という言葉があり
ます。「今だけ、力ネだけ、自分だけ」
という世相を表すものです。そこで、
私たちが従事している社会福祉、と
りわけ障がい者福祉の世界ではどう
だろうかと思いました。

話は変わりますが、最近、私どもの
周囲でもアンケートが多く見られま
す。アンケートを受けることが私自
身も度々ありますが、福岡市手をつ
なぐ育成会（全国手をつなぐ育成会
連合会も含めて）も会員・保護者の皆
さんに最近よくアンケートをさせて
いただいております。福岡市手をつ
なぐ育成会も、年末に会員・保護者の
についてアンケートをさせていただき
ました。このアンケートは、成年後

見制度に関する皆様の利用の状況や
おられる課題を把握し、育成会が障
がいのある方の権利擁護に今後どう
取り組む必要があるのか、とりわけ
成年後見制度にどう取り組むべきか
について今後の取り組みに生かした
いとの目的でアンケートさせていた
だきました。昨年末現在で多くの皆
様から回答をいただきました。回答
いただいた皆様にこの紙面を借りて
お礼を申し上げます。

ところで、ここでアンケートを話
題にさせていただきましたのには理
由があります。アンケートに回答を
いただくということは、アンケート
の内容が障がいのあるわが子、わが
きょうだいの現在、将来に関係が深
い内容であるということもあります
が、少し違った角度から考えますと
アンケートにお答えいただくのは前
述の「3だけ主義」とはま反対のお氣
持ちがあるからではないかと感じて
います。

アンケートを作成する側から言え
ば、何人の皆さんから回答いただけ
るだろうか、回答する立場では答える
にくい質問や表現はないかなどと考
えながらアンケートを作成していま
す。そして、何よりアンケートを作成
する側の思いを正確に伝えたいと思
っています。そのような中、アンケー
トにお答えいただき、自由記述欄に
意見や悩みを記入いただいたるの
を拝見しますと、われわれが考えて
いる方向についてご理解いただけて
いるのかな、心が通じているのかな
と勝手に安堵もします。

同時に、現在の育成会の力を見な
がら、アンケートにお寄せいただい
た皆様の気持ちに何とか形にしてお
応えしなければならないと意を強く
する次第です。

皆様にアンケートやこれに類する
ものを今後もお願いすることもある
うかと思いますが、またかと思われ
ず、ご協力いただければと願います。

平成27年の福岡市の取り組みについて

福岡市保健福祉局 障がい者部

障がい者在宅支援課長 竹森活郎

発行の時期の関係で、年が明けて少し時間が経ちましたが、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年が皆さまにとってよい年でありますことをお祈り申し上げます。さて、新年にあたり紙面をいただきまして、今年の福岡市の障がい福祉施策のうち、これから障がい福祉施策の方向性を考える取り組みについてご紹介いたします。

福岡市は、昨年の4月、福岡市保健福祉審議会に平成28年度から平成32年度を計画期間とする「福岡市保健福祉総合計画」の改定について諮詢いたしました。この計画は、福岡市福祉のまちづくり条例に定める「福祉のまちづくりに関する基本となる計画」であり、福岡市における保健（健康）・医療・福祉など様々な分野の各計画を横断的につなぐ基本理念と、取り組む施策の方向性を明らかにする保健福祉行政のマスタートップ

ランとして策定するものです。

また一方で、高齢や障がいに関わらず、誰もが地域で安心して生活していくための指針となる計画であり、本市の保健福祉施策の方向性を総合的に示す計画です。そのため、社会

福祉法に定める「市町村地域福祉計画」や老人福祉法に定める「市町村老人福祉計画」、そして障害者基本法に定める「市町村障害者計画」といった法定計画を一体化して策定します。

平成27年には、福岡市においても高齢化率は21%を超えることが見込まれており、これまでに経験したことのない超高齢社会の到来が目前に迫っています。このよう中、本計画は「持続可能で生活の質の高いまち」を構築し、また「10年後の将来に向けたあるべき姿」を達成するための今後の道筋を示すものです。

超高齢社会の大きな流れは、障がいや発達障がい、医療を必要とする重度障がいなど、障がい特性に配

な課題の一つです。障がい者自身の高齢化、親の高齢化により、これまでもない新たな施策の展開が求められます。高齢者施策との連携はもとより、障がい者が地域で安心して生きていくためには地域福祉施策との連携も重要な課題です。

平成27年は、この「福岡市保健福祉総合計画」の策定が本格化します。すでに当審議会の障がい者保健福祉専門分科会で総論の議論が始まり、新年度にはいよいよ各論の議論に移ります。

障がい者施策の分野では、昨年2月に効力を発した「障害者権利条約」の趣旨を受けて、障がい者の権利の享有の促進と人権尊重に向けた取り組みをより一層強化していく必要があります。特に、平成28年4月の障害者差別解消法の施行を念頭において施策の方向性を考えていくことになります。

また、地域での支援拠点などの課題を含めて、地域社会における共生、ユニバーサルな社会づくりという視点は、これまで以上に重要な視点になるものと思いますし、强度行動障がいや発達障がい、医療を必要とする重度障がいなど、障がい特性に配慮した支援についても引き続き重要な視点です。

これらの議論は、障がい者団体の代表や公募によって選ばれた当事者の委員も加わる福岡市保健福祉審議会障がい者保健福祉専門分科会を中心に、今後も公開の場で行い、新年度内にはパブリックコメントを実施することになります。皆さまからのご意見もお伺いしながら計画の策定に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



福岡市手をつなぐ育成会共同事業

「秋の合同花見会」報告



今年度の法人内の新たな取り組みのひとつとして、「育成会共同事業」が検討されてきました。これは、近年新しい事業(所)開設に伴い、利用者、保護者はもとより職員も法人の理念を共通に有する機会が確保できていないのが現状です。そのため、まずは、法人関係者が集まる交流の一環として今回「秋の合同花見会」が企画され、去る11月11日に福岡市植物園にて実施されました。

当日は、晴天に恵まれた中、各事業所、保護者会、法人理事、評議委員の他に福岡市議会議員の大原弥寿男議員、池田良子議員にもご参加いただきました。植物園集合後は、理事長挨拶、各事業所ごとに紹介を行いその後自由時間を設けました。自由時間では、皆さん園内を散策しながら久しぶりの再会を懐かしむ方や知り合いの職員を見つけて近況を報告される方などの姿が多く見られました。

昼食後(お弁当)は、障がい者スキー

ツセンターの指導員の方によるレクリエーションを行いました。マツケンサンバに合わせてダンスをしました。皆さん、楽しそうに体を動かしていました。その後、じゃんけん列車というゲームをしました。これは、じゃんけんをしながら、負けた人は勝った人の後ろについていくゲームでした。最終的に勝ち続けた方には景品贈呈がありました。じゃんけんをする度に一喜一憂しながら大変賑やかな雰囲気でした。レクリエーションで楽しく過ごした後、最後に、保護者会会長の挨拶で閉会し、各事業所ごとに解散となりました。帰られる際、多数の利用者、保護者の皆様から「楽しかった、また、このような機会を設けて欲しい。」と言う感想をいただきました。

この共同事業については、引き続き法人で取り組んでいき、更なる福岡市手をつなぐ育成会関係者が一丸となれるよう努めていく所存です。



今回の各事業所からの報告は、各施設長に「今年の抱負」を述べてもらいました。各事業所ごとの取組みをご理解いただき、今年一年、当法人内事業所をご利用いただければと思います。



ひまわり園 施設長 花田 敏秀

新年にちなんで干支のお話から始めたいと思います。平成27年は未年です。羊頭狗肉（ようとうくにく）という言葉があります。故事ことわざ辞典によれば「見かけだけおれで実質がともなわないこと」を言うそうです。同じ意味で羊質虎皮（ようしつひ）という言葉があります。同辞典によれば「外見だけは立派だが、それに実質がともなわないこと」という意味だそうです。

さて、ひまわり園は昭和53年4月に開設されまして、今年で36年になります。現在の地に移転してちょうど20年です。民間の授産施設としては福岡市で最初に開設されたと伺つています。同じ時期に「福岡市手をつなぐ育成会」は、ひまわり園設立のた

めに法人化されていますからまさに法人の歩みと軌を一にしています。法人の中核施設として今まで歴史を刻んできました。これも偏に、知的障害をもつ我が子の社会での位置を何とか確保したいという保護者のみなさまの御苦労の賜物であると思います。

ところで、ひまわり園では、多機能としての障害福祉サービス事業の他に、特定相談支援事業、グループホームの管理運営、カフェ・サンフラワーの運営も同時に行っています。当然のこととしてそれぞれの事業に人を割かねばならず、園の本来の業務である障害福祉サービス事業と相まって、職員の業務は多岐に渡っています。いざれの事業も法人として重要な事業であり手を抜くことはできません。冒頭のことわざのように看板倒れにならないよう厳に戒めて、それぞれの事業の質の向上に勤めて参りたいと思います。そのためにはみなさんと相談しながら、ご協力を得ながらになりますが多少のスクラップアンドビルトを進めていくことも必要だと思います。歴史があるだけに大変なことなのですが一つ一つ進めて参りたいと思います。松尾芭蕉は「不易流行」という言葉を残しています。これは大事なもの（魂・ス

ピリツツ）を残して時代に合わせるべきは合わせる。そうしないと伝統は守れないという意味です。私の大好きな言葉の一つです。今年も何かとご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんのが何卒よろしくお願ひいたします。

福岡ひまわりの里 施設長 堀 浩一郎

福岡ひまわりの里では施設利用者の平均年齢が50歳を越え、健康面の配慮が重要になってまいりました。利用者の健康を守りながら、日々の生活をどう支えていくか、安心、安全に暮らせる生活の場の整備を進めています。

また、法人事務局とともに「福岡ひまわりの里あり方検討会議」を毎月1回、実施しています。これから福岡ひまわりの里の役割について、障害者総合支援法の理念である「地域社会における共生の実現」を踏まえ、

平成27年度末には今後の方向性を示せるよう考えております。
最後に、今年は職員一同で支援に対する姿勢、方法等について原点に立ち返り、より利用者のみなさんの気持ちに寄り添う支援に努めてまいります。



ひまわりパーク六本松 施設長

昨年は障害者権利条約が批准されました。新たなスタート地点に立つ年となりましたが、当事業所においても大きく動いた一年でした。11月に事業所主催によるイベント「ロツククロス」を開催し、初めての試みにも関わらず大勢の来場を得、私たちの活動を知つていただきました。また、地域の小学生と一緒に総勢80名で制作したアート看板が、「ユニバーサル都市福岡・2014」「みんながやさしいでしょう」部門において

優秀賞を受賞しました。今後に期待を込めた賞であると認識し、さらに地域貢献を進めていきたいと思つております。現在は地下鉄六本松駅構内に掲示され、多くの市民の啓発につながつてゐると思います。

今年は開所から4年目を迎えます。多くの方から高い評価を得てゐるアート活動は、今後新企画での商品化や、企業商品におけるデザイン採用をさらに積極的に進めていきます。

また、現在進行中の六本松商店連合会とのマップ作りへの参画をきっかけに、地域との絆をさらに強め、障がい者への理解を深めたいと思ひます。アート活動を通して地域の再生に貢献し、そのことが就労の機会につながることを願うところです。

権利条約で繰り返し示されているところの「他の者と平等な地域での暮らし」の意味を深く理解することを認め、ゆっくりとした歩みながら実現に向け取り組んでいきたいと思ひます。



ひまわりパーク六本松 (福岡市内におけるユニバーサルデザインの考え方に基づく優れた活動や取組みで、継続性があるもの。)

みんながやさしい部門

※ユニバーサル都市・福岡賞とは：市民や地域、企業の皆さんのがんのユニバーサルデザインに基づく優れた活動を表彰し、その取組みをさらに進めていただくとともに、多くの市民の皆さんにユニバーサルデザインとは何かを知つていただきために昨年度創設いたしました。(ユニバーサルデザインリーフレットより)



【選考理由】

・障がいのある人と地域の住民や小学生など多様な人たちと一緒にアート看板を制作することで、障がいのある人の地域参加に寄与している。



つぼみは平成25年3月に指定障がい福祉サービス事業所としてスタートして以来、利用者、保護者、ボランティアの皆様のご理解、ご支援のお陰で3年目を迎えます。活動は施設内での箱折、施設外就労として動物園、こども総合相談センターの清掃作業を通じて社会に貢献しており、また働く皆さんの日々の充実感につながることを目標に運営に努めてまいりました。

サービス等利用計画案の作成は初めてのことと少し時間がかかる面もあると思いますが、これからよりよいサービスを利用し、安心して生活するために必要なものです。つぼみでは特定相談支援事業所ひまわり等と連携を図りながら利用者の皆さんの支援に取り組んでまいりますのでお気軽にお尋ねください。

結びにつぼみはこれからも皆様方から信頼される事業所を目指して取り組んでまいりますので本年もご指導ご支援をお願い申し上げます。

職員は平成26年度の育成会主催虐待防止研修を始め各種の研修を受講し資質向上に努めております。利用者ひとり一人の希望や目標を私たち職員も共有し、皆さんが毎日元気に作業に取り組める環境を整え、挨拶や笑顔で一日の活動を始めたいと思ひます。



ひまわりパーク上牟田は開所以来1年10ヶ月が経過しました。就労継続支援B型、生活介護、日中一時支援事業を行っており、現在の利用契約者数はB型21名(定員20名)、生活介護6名(定員6名)です。2年目にしで定員を満たすことが出来ましたが、当事業所のような小規模事業所は、契約利用者数が経営の安定に欠かせないと痛感しているところです。利用の継続の為には、利用者の皆さんのが意欲的に取り組める作業内容の提供、毎年の工賃の向上等、魅力ある事業所作りをめざし、ひまわりパーク上牟田の名前を広く知つてもらうことが重要かと思います。

昨年の年度途中から精神障害のある方が通所されています。毎日というわけにはいきませんが、上牟田での生活を楽しみにしておられます。本人さんが利用しておられるグループホームスタッフの方も、日中を過ごせる場ができたことを嬉しいと話されます。今後も門戸を広くし、利用希望に応えることができたらと考えています。これまで特別支援学校の卒業生の受け入れが出来ていないので、

ひまわりパーク上牟田は開所以来1年10ヶ月が経過しました。就労継続支援B型、生活介護、日中一時支援事業を行っており、現在の利用契約者数はB型21名(定員20名)、生活介護6名(定員6名)です。2年目にしで定員を満たすことが出来ましたが、当事業所のような小規模事業所は、契約利用者数が経営の安定に欠かせないと痛感しているところです。利

ひまわりパーク上牟田 施設長
伊原 貴子



ですが、生活介護事業を希望される方のほとんどが送迎車を利用したいとの要望がある中、現在の送迎が手一杯で受け入れ態勢が整っていないなかつたという事があります。新卒以外の方でも送迎があればとの声を聞きましたので新年度は送迎のあり方、職員体制の見直しを図り、要望に応えながら事業所運営の安定を図つていただきたいと考えます。

伊達 美奈子
ライフサポートをつなぐ 施設長



現在のところ、契約者数は、延べ30名、サービス提供時間は、月平均100時間余りとまだ少ないので、時間が利用される時間帯が、早朝7時～8時、夕方16時～21時・土日祝日の日中に集中しています。

実際に、提供しているサービスは、みなさんが存知のとおり、「入浴の支援(衣服の着脱)」実際に体を洗うまたは部分的に支援する」「事業所に出られる前の支援(朝食・ひげそり・着替え)」「帰宅されてからの支援」(送迎の御迎え・着替え手洗い等)と協力して取り組める作業がないか、地の利を生かした関係づくりができるないか模索しながら前進していく必要があります。



スクリーン(樹脂版印刷)、ポテトチップス製造の売り上げが中心になりますが、受注の袋折りや封入封緘もより多くの利用者の皆さんに取り組んでもらっています。工賃を度外視すれば袋折りなどが良い面もありますが、少しでも工賃をアップしようとすれば、新規事業の開拓や、ポテトチップスをより多く販売するための工夫及び生産・販売体制を見直す必要を感じています。新規事業の開拓については、上牟田地域の企業と協力して取り組める作業がないか、

そのために、障がいのある方の障がいを理解して支援すること、炊事や洗濯、外出支援など時間内にこなされことなど、出来る限り普段と変わらない生活をするために支援したいと考えて、ご自宅に伺っています。そのためには、障がいのある方が理解して支援すること、炊事や洗濯、外出支援など時間内にこなされことなど、出来る限り普段と変わらない生活をするために支援したいと考えて、ご自宅に伺っています。

4月に開所して、未だ10ヶ月余りのひよっこ事業所です。この間に、移動支援の事業所指定を受けることができ、「提供できるサービスの内容が増えました。

現在のところ、契約者数は、延べ30名、サービス提供時間は、月平均100時間余りとまだ少ないので、時間が利用される時間帯が、早朝7時～8時、夕方16時～21時・土日祝日の日中に集中しています。

かと思います。

この10ヶ月の間に、急にご家族が入院された等で、誰かに手伝つてほしい、本人の食事や身の回りのことを見てほしいということになり、「てをつなぐ」で対応させて頂いたりしています。

ご家庭に入れていたりですが、10人いれば10とおりの生活があり、同じ事柄でも、大切にしたいと思つておられることは人によつて違います。

ご本人のできること、大切にしておられることなど、出来る限り普段と変わらない生活をするために支援したいと考えて、ご自宅に伺っています。

幸い、現在登録してくださっているヘルパーの方々は、障がいのある方の気持ちに自然と寄り添える方たちばかりですので、まずは第一関門をクリアできているのではと自信しております。

これからも、実際にサービスに入つたことから学びながら、利用される方の望むサービスの提供ができることが、また、支援に伴い事務的な事柄も増えてまいりますので、効率よく対応できるよう居宅介護事業所として整備してまいります。

ただ、ご家族の場合、いつもいつもご本人のためだけに支援が提供できるわけではないと思いますが、「居宅」を利用するといふことは、障がいのあるご本人のために支援が存在することになりますので、その点が違う

ご本人のためだけに支援が提供できるわけではありませんが、「居宅」を利用するといふことは、障がいのあるご本人のために支援が存在することになりますので、その点が違う

第一誠先生 講演会

(第2回専門職員研修会) 報告

專門職員研修委員

荒井晃紀

今年度第2回専門職員研修会を去る11月15日に市民福祉プラザにて行いました。

この研修会は、当法人と他の法人が共催して毎年行つており今回で5年目となりました。

多かつた自分の支援を振り返り
そのことでご本人にかえつて混乱
を招いていたのではないかと
反省した。

いろな経験を提供することの大
事さを学んだ。

- ・支援をする際は「小さな声」で「簡潔」に「肯定的」に伝えることを実践したい。
- ・支援する側の理解や対応が大きく影響することを知った。
- ・目を合わす事ひとつをとつても、少しの工夫でお互い無理なくできるのだと改めて思った。
- ・言葉のかけ方、予定変更等の行動について自分自身反省することが多かつた。

午前の講演「自閉症の特徴」

- ・特徴をふまえての具体的な関わり方のヒントがたくさんあり参考になつた。
 - ・自閉症の方は五感が研ぎ澄ましており、私達が感じないことも敏感に感じ取つたりすることを知り驚いた。
 - ・言葉の理解の仕方について今まで副詞や形容詞を使つた表現の

千後の講演会
「自閉症」の闇
第5回 節一誠先生講演会

NPO法人PDDサポート
グランシップリスト
理事長 里

- 後の利用者の方達の言動の意味や感覚の違いを觀察する時の見方が変わるとと思つた。

先入観や固定観念に捉われていると支援の幅が狭くなるという事や自閉症の方々が発信するサインを見逃さない事の重要性を再確認させられた。

視覚刺激への視野の広さ、いろ

午後の講演「自閉症との関わり」

 - ・自閉症の特徴を学んでさらに関わり方の配慮や工夫について深く学ぶことができた。
 - ・毎日のケース記録の書き方において、主観的になつていなかつてもう一度見直そうと感じた。

午後の講演 「自閉症との関わり」

- 自閉症の特徴を学んでさらに関わり方の配慮や工夫について深く学ぶことができた。
毎日のケース記録の書き方において、主観的になつていなか
もう一度見直そうと感じた。

改めて事実の積み重ね、記録の位置づけなどが確認できた。

- ・関わりの中で、こちらを押しつけるではなく、観察して対応すること、こちらをどれだけ見られているかを意識することも重要なことを考えることがで

きた。

- ・言葉のかけ方、デモンストレーション（モデルを示す）、褒めるなど日頃行つておる事の意味を考えさせられた良い機会であった。

今回の研修で、職員各自が自閉的傾向のある利用者の方に対しての関

わり方を振り返るとともに、今回身に付けた知識を実践に活かし、今後の支援業務を行うことを期待します。

ります。

大会の式典では、福岡県知事、北九州市長、福岡市長の代理としてご臨席いただいた、県福祉労働部長の高橋様、北九州市障害福祉部長の戸島様、福岡市保健福祉局長の中島様から、育成会活動に対する感謝と今後の期待等心温まる力強いご祝辞を賜りました。

育成会活動及び福祉の向上に寄与された方々を対象に行う大会表彰では、各育成会から選ばれた2名の方々が表彰を受けられ、日頃の活動の成果とこれから取り組みへの励みとなられております。



第34回手をつなぐ育成会 福岡県大会を開催して(概況報告)

事務局局長　淵上忠喜

大変遅れましたが、昨年10月4日に開催しました「福岡県手をつなぐ育成会連絡協議会主催第34回福岡県大会」の報告をさせていただきます。

当大会は、福岡県手をつなぐ育成会、北九州市手をつなぐ育成会と福岡市手をつなぐ育成会の三育成会が連携し輪番制で開催する大会ですが、今年度は当育成会が主幹を務めています。

全国手をつなぐ育成会連合会からも、久保厚子会長と田中正博統括におりでいただき、久保会長からは「今、育成会の役割と展望を語る」と題しての基調講演、田中統括からは「中央情勢報告」として内閣府の障害者政策委員に就任されているお立場も含めて最新の福祉情勢をお話いただきました。

締めくくりは、「共生社会づくりにむけて、地域の育成会と会員が今できることを考えよう」と題したシンポジュームを開催し、久保会長、田中統括及び各育成会の代表と会場の来場者が一体となって、意見交換や情報の共有をしました。育成会のこれまでのあゆみを踏まえ「今の役割と出来ること」について行動に移す機会を確かめあいました。紙面の都合上、簡単な概況報告となりましたが、全国及び各地の育成会との連携の絆とこれから役割を確かめ合う有意義な大会がありました。



保護者会だより

福岡市手をつなぐ育成会保護者会

「今は、大丈夫。でも、将来は不安」から

進むために

会長 下山 いわ子

新年もあけて早2ヶ月が過ぎました。

今年は、戦後70年ということです、さまざまな分野で歴史が振り返られています。

「戦時中は、兵隊になれない人は、非国民や極つぶし」といわれる一方で、戦争は障がい者

を生み出し、傷痍軍人の待遇改善の訴えが障がい者運動のはじまりとなりました。そして、昭和24年に国内初の障がい者

福祉法である身体障害者福祉法が制定されています。

その後、「昭和27年に東京の3人のお母さんが知的障がいのある我が子の幸せを願つて立ち上がった」という手をつなぐ育成会の原点。そこから、先輩のみなさんが積み重ねて今があることを感謝して『障がい福祉は当事者の運動から』ということを年初めに改めて肝に铭じています。

会員の方から「私は、80代。今は、大丈夫。でも将来は不安。でも何をすれば良いかわからぬ」という声を多く聞きます。

この漠然とした不安の原因を具体的に見直して、対策を考える活動をしなければと考えています。

たとえば、「いくら子どもに準備すれば良いの?」「療育手帳Bは医療費が大変」なども良く話にできます。

「収入として障害年金。支出は、衣食住費、医療費、サービス利用料、余暇活動費、イベント費、成年後見制度利用費、等々」から、必要経費の生涯プランの概算をたててみる。保護者自身についても、介護費用も含めて試算してみる。福祉の手続きを一緒にしてみる、など、具体的に生活に密着した取り組みをして、「将来は不安」を具体化して、解決策を見出していくたい

です。

行政や議員の方が求めているのも、私たちの願いの根柢となる生の実態と数値化されたデータです。

育成会保護者会の約五百名の会員は年齢層も広く、福岡市全域で様々な形態で生活しています。また、活動は会員外にも開いていますので、知的障がい者の実態や声を集められる団体です。

実態を整理して、見える形(数値化等)にして関係各所に届ける努力が足りなかつたと反省しています。育成会保護者会だからできること、すべきことを再検討して、意味ある活動をおこなつていきたいと思いまます。

より一層みんなさんの思いに心を寄せて、みなさんとともにしつかり活動していく育成会保護者会であるよう、一心に努めます。

各区の連絡先
福岡県西方沖地震から10年になります。備えをしましよう。

窓口でお渡ししていますが、福岡市のホームページからもダウンロードすることができます。

申込書をご提出いただきますと、お住まいの地区の民生委員が皆様のお宅へ伺い、世帯の状況、障がいの状況、緊急連絡先、防火訪問の希望の有無、校区自治協議会への名簿提供の可否(注)などをお尋ねし、台帳に登載します。(注)校区自治協議会への名簿提供の可否は、市役所と覚書を締結している校区の方のみにお尋ねします。

災害時要援護者台帳に登録していますか? 福岡県西方沖地震から10年になります。備えをしましよう。

各区役所の福祉・介護保険課(お問い合わせは下の表を参照)の窓口に、災害時要援護者台への登載に関する申込書をご提出ください。

東 区 TEL 092-645-1067
博多区 TEL 092-419-1079
中央区 TEL 092-718-1100
南 区 TEL 092-559-5121
城南区 TEL 092-833-4102
早良区 TEL 092-833-4353
西 区 TEL 092-895-7064

「福祉避難所」

知っていますか？

福祉避難所は、二次的避難所です。

避難所に避難 → 必要があれば、

福祉避難所へ移送

ですから、できれば、療育手帳を本人がいつも持つていて、災害時要援護者台帳の登録をしていると、避難場所の職員に支援が必要なことが早く伝わります。

SOSファイルは、記入していませんか？ SOSファイルもとても有効です。しかし、持ち歩くことは難しいので、福岡市育成会保護者会では、日頃から身近に活用できるもの、例えばバッヂなど検討中です。

知的障がい者について啓発を進めるとともに、私たち自身も備えていきましょう！

福岡市では、すべての公民館、市民センター、市立小・中・高等学 校などを「避難所」として、公園や広場、学校のグラウンドなどを「避難場所」に指定しています。

避難所（場所）は、風水害などにより事前に避難が必要な場合や、地震などにより住宅が壊れたり失われるなどして生活ができなくなつた場合などに開設します。

福岡市ホームページ（関連するページ）からもダウンロードできます。詳しく述べは、情報プラザ（市役所1階、区役所、防災・危機管理課で配布している各区版「浸水ハザードマップ」をご覧ください。

- ・一時避難所（公民館等）
- ・収容避難所（小・中学校等）
- ・地区避難場所（小・中学校の運動場・公園等）
- ・広域避難場所（大規模公園等）

今年の4月の、地方統一選挙に向けて、今回も育成会保護者会から全会派宛てにアンケートをとります。

アンケートは、候補者の考えを聞くとともに、アンケートの項目に私たちの現状や願いを入れて、議員になる人たちに知つてもらう、という意味があります。

今まで高齢者施策については多くの提案がありましたが、障がい者については、ほとんど触れられていません。少數派である障がい者が、理解者をふやすチャンスです。

アンケートの結果は、会員には、文書で、また、ホームページでも報告します。

◆地方統一選挙に向けて
アンケートをとります
4月12日投票日

育成会保護者会 催し物

◆お申し込み、お問い合わせは、育成会保護者会まで

特筆ないものは会員外参加OK
☆65歳問題って なに？ 第3回目 高齢施設での知的障がい者の暮らしは？ 2月9日、10：30～、ふくふくプラザ201会議室、要申込（会員外 資料代等300円）講師：特別養護老人ホーム花の季苑 介護計画サービスセンター 小山田望業務課長・あいあいセンターリハビリテーション課 中島大輔相談支援専門員・福岡ひまわりの里 堀浩一郎施設長、**☆個人会員の集い** 2月16日、10：30～、ふくふくプラザ4階応接室2 **☆幼児学齢向け定例** 2月21日、10：30～、ふくふくプラザ4階応接室3 **☆成人部会研修 終の棲家検討会議進捗状況報告**（会員のみ） 2月24日、10：30～、ふくふくプラザ501研修室会 要申込 ○講師：藤田富雄氏

☆本人活動
オープンスペース
2月21日、11：00～15：00、ふくふくプラザ5階
調理実習室、申込が必要
参加費400円（会員外800円）
持ってくるもの
三角巾・エプロン

福岡市手をつなぐ育成会
保護者会
TEL 092-713-1480
FAX 092-715-3561
e-mail hogsha@fuku.jp

三役会

副会長 辻田 幸子

各部会の特色を生かした研修会が開催されています。会員の知りたいこと、役員・部員のやつてみたい内容を取り上げて、みなさんにご案内しています。

三役会は「65才問題って何?」

をテーマにして、3回のシリーズで取り組んでいます。

○第一回 65歳は、何が問題?

(10/10)

講師 ひまわり園 花田施設長

65才を迎えた利用者の方の現実をとらえ、役所等に同行し、介護保険優先についてご家族と一緒に考える中で、知的障がい者が介護保険に移行するの多くの問題があるとのお話を聞きしました。しつかり考えていなかければいけないとの事でした。

○第二回 高齢の障がい者の制度を知ろう (12/8)

講師 障がい者部在宅支援課、施設

支援課、高齢社会部介護保険課より、それぞれの課の課長、係長 5名

これからも身近に感じてもらい、我が家のことと思つて、多くのかたに参加して頂きたいと思います。



毎回、会場満員です

部会活動

その後ボウリングでいた本人に会に申し込んだ。

した。



楽しかったよ♪

地域生活支援

部会長 古川 直美

地域生活支援部会は、5月 オープンスペース(スペアゲティ)7月 本人の声を聞く会 9月 オープンスペース(お好み焼き)、10月のボウリング会は、当日は台風が福岡直撃で、本人たちの安全を考えて中止にしました。

1月 ダンスパーティー、2月 オープンスペース(ホワイト・シチュー)を予定しています。

自分から「休みのとき何をしようかな」と行動する方が少ないので、

私たちの楽しい余暇活動の支援ができるように、また 体験、経験によって本気さんたちのできなかつたことが、できるようになる支援もしていきます。

地域生活支援部会で成人の方、幼児・学齢期の方の交流ができるのも幅広い会員がいる「手をつなぐ育成会」だからこそできます。

障がいがあるから何もできないではなく、支援の方法で出来る可能性があることを実践していました。

これからも年齢に関係なく多くの方が気軽に参加できるようなことを企画していきます。

ひまわり療育キャンプ

11月に1泊2日で、海の中道青少年海の家で行いました。子どもたちは、学生ボランティアの方達や、特別支援学校の先生たちと、音楽あそびや、運動会をして楽しみました。保護者は、子どもたちと離れ、アロマ教室を体験したり、日頃の悩みを話して有意義な時間を過ごしました。

**ことばの学習会**

今年度で10年目になりました。お子さんの発語に不安をお持ちの保護者の方々に、一番身近な保護者が、より良い支援者になれるように、また、ひとりで悩まなくてよいように、これからも、学習会を継続していきます！

幼児・学齢

子どもたちや保護者を対象に色々な催しを企画しています！（＾＾）！

**保護者のための
作業体験**

11月18日・20日にひまわり園で実施し、園内見学の後、作業班（手芸陶芸・木工）に別れて、作業体験、清掃、給食を利用者の皆さんと共にし、見学だけでは気づかない事もたくさんあり、とても充実した体験になりました。

音楽あそび

毎月 第1土曜日に城南フレンドホームで音楽あそびを実施しています。音楽療法士の先生と、学生ボランティアのみなさんのご協力で小学生対象のビートンと中学生以上対象のノートンの2グループで、音楽を通じて、ことばの発達・コミュニケーションを育む活動を楽しく行っています♪

部会活動

**成
人**

今年度より久し振りに保護者会役員となり5ヶ月が経ちました。

まず、感じたことは親の高齢化、そして本人が高齢化した時の問題です。

それは、私自身が高齢になっているせいで敏感になっているのかもしれません、例えば学齢期の環境は、我が子が二十数年前学齢期の頃とは比べものにならないほど暮らし易くサービスも増えているようです。

そして卒後の通所には送迎が始まり、一昔前と比べて親はとても楽になりました。居宅のサービスも利用でき、福祉は充実しているように思えます。

しかし、親として一番心配な親亡き後は良くなるどころかまったく見通しが立ちません。知れば知るほど暗い気持ちにさえなります。

このような問題を多くの会員の方々とともに考え、解決までいかなくとも、確実に前にすすむために、研修会を企画し、情報を提供していきます。

みなさん、ご参加ください。

部会長 奥村 信子



昨年11月18日から24日まで福岡市美術館で開催されました「第7回福岡市障がい児・者美術展」の入賞者表彰式が2月1日(日)に福岡市市民福祉プラザ内ふくふくホールで行われました。今回は488点の応募総数の中から70作品(69名と1団体の皆様)が各賞を受賞されました。当時は、ステージバッケに表彰作品が映像で紹介される中、受賞者おひとりお一人に賞状の授与が行われました。受賞者の皆様は、どなたも晴れやかな笑顔で賞状を受け取られていきました。式典後は、映し出された作品をバックに写真撮影を行う受賞の方も多数いらっしゃいました。

入賞作品については、表彰式翌日(2/2)から一週間(2/8)まで、福岡市中央区天神の新天町にあります「ギャラリー風」にて入賞作品展を行います。この入賞作品展については、次号でご紹介いたします。

速報!! 表彰式・ミニコンサート開催

第7回福岡市障がい児・者美術展

!!

また、同時開催としてミニコンサートを実施いたしました。今回は、まず式典に先立ち「すずめの会」の皆さまのオカリナ演奏がありました。会場内に透き通るようなやさしい音色が響き渡りました。式典終了後、「スペシャル☆キッズ」の皆さんによるリトミック(ぐりとぐら)が披露されました。とてもかわいい歌と動きは、会場を和やかな雰囲気にしていただきました。最後に若久緑園の「スマイルスマイル」の皆さんのが登場し、バンド演奏をされました。その内容は、とてもパワフルで会場の皆さんに元気と勇気を与えてくれるものでした。

知的障がい、発達障がいのある方を、充実した保障でお守りします！

ぜんちの あんしん保険

平成25年料率改定

少額短期医療综合保険(高齢者)2012年創設

入院保障

1泊2日からの手厚い入院保障。

個人賠償責任補償

原則として支払い回数に制限なし。

権利擁護費用補償

被害事故を解決までサポート。

死亡保障

万一のときの死亡保障。

ぜんちのあんしん保険 保障内容(A-1プランの場合)

年間保険料17,000円でこの充実した保障をお届けいたします。

病気・ケガ	死亡保険金	10万円	被害事故	法律相談費用	5万円
ケガ	特定重度障害保険金	10万円	被害事故	弁護士委任費用	100万円
病気・ケガ	入院保険金	1日につき8,000円	被害事故	接見費用	1万円
病気・ケガ	入院一時金	10,000円	個人賠償	個人賠償責任保険金	1,000万円
ケガ	傷害通院保険金	1日につき1,000円			

*1:一回の入院または一回の通院につき、30日限度。

*2:てんかんによる入院の場合は1日につき4,000円となります。

*この広告は商品の概要を説明しております。ご契約の際には必ず「パンフレット」「重要事項説明書」をご確認ください。

詳しい資料のご請求、商品のお問い合わせは下記代理店へお気軽にどうぞ。

○取扱代理店

株式会社 グッド・サポート
TEL 092-263-6771 FAX 092-263-6772

〒812-0037 福岡県福岡市博多区御供所町2-63 博多パルビル3F

○引受け保険会社

ともに助け、ともに生きる
・・・・・
ぜんち共済株式会社

同封料別表第2(少額短期保険)第14号

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3丁目5番8号
岩本町シティプラザビル5階

理事・監事紹介

任期満了(平成24年11月1日)～平成26年10月31日)に伴い理事・監事の改選を行い、左記の方が委嘱されました。2年間(平成26年11月1日～平成28年10月31日)よろしくお願ひします。

●新理事

向井 公太	松村 緑
岩城 和代	水本 久利
藤田 富雄	川上 森
荒浪 聖	花田 敏秀
常岡 和臣	田良島 博
下山いわ子	前川 道隆

●理事退任

牟田 勝則	和佐 優
-------	------

●障がい者更生援護関係者

社会福祉事業従事者	社会福祉協議会表彰
牟田 勝則	和佐 優

(就労継続A型)
パークつぼみ

牟田理事、和佐監事には、任期中育成会へご尽力いただき厚くお礼申し上げます



平成26年度 市長及び市社協会長 顕彰表彰

●障がい者更生援護関係者 社会福祉協議会感謝状 佐久間美千代 様

高橋 宏子 様	知的障がい者相談員
久保田弘美 様	知的障がい者相談員
大石 民子 様	知的障がい者相談員
坂本千枝子 様	知的障がい者相談員
寺本 悅子 様	知的障がい者相談員
永井 夏代 様	知的障がい者相談員
谷口 夏子 様	知的障がい者相談員

表彰おめでとうございます。

●職員人事

■退職者■ ひまわり園 西嶋 操

■新規採用■ 清掃事業部 下原 利光

●福岡県手をつなぐ育成会 連絡協議会 会長表彰

藤瀬三枝子 様	(苦情処理第三者委員)
廣松 博子 様	(評議員及び育成会保護者会幹事)

受賞おめでとうございます
(平成26年10月～平成26年12月)

寄付のお礼

法人へ
井上 緑代 様

（平成26年10月～平成26年12月）

井上 幸次 様
須田 君子 様

吉村 里美 様

ひまわり園へ

福岡ひまわりの里へ
田中 春子 様

木上 就子 様

ライフサポートてつなぐ

藤島まなみ 様

川村 千香 様

三原有香子 様

辻田 健士 様

藤島まなみ 様

川村 千香 様

牟田 勝則 様

（就労継続A型）

藤島まなみ 様

牟田 勝則 様

ひまわり

パークつぼみ

（就労継続A型）

三原有香子 様

牟田 勝則 様

ひまわり

パークつぼみ

（就労継続A型）

牟田 勝則 様

ひまわり

パークつぼみ

（就労継続A型）